

メバランドと難民支援シナピスにおじゃましました。

トランジエンダーとして happy に生きていくそうです。とても強くしなやかな方です。

「世間は、トランジエンダーはこうだとう社会モデルに飛びつくが、ひとりひとりに色んなドラマがあり、それはまだ言葉にされていないの。」と、メバさんはつとしました。

合唱組曲「クウネルワラウ死ぬまで生きる」の中の「メバランドー虹色トランジエンダーのお話」を多くの人と歌い、多くの人に聞いてもらいたいと思います。

知らないことを知らないままにしないために。

知ること、歌うことから生まれる「新しい何か」
今度の組曲は、ワクワクします！

北林 亜弓

「たのしごとのかげ」

じ共感しまわ!

ギ・ギ・ギ

メバさんはパフォーマンスアート、詩、写真などの表現者。そしてトランジエンダーでもあります。その言葉は深く、しかしストレートにご自分のことを語ってくれました。

取材に同行したのは6月、最高裁が戸籍上の性別を変更する際に、手術を必要とする「性同一性障害特例法」の規定を違憲とする決定を出す以前のことです。メバさんは自分の体にメスを入れることを良しとせず、4年前に自分の中に入れる、「男性と女性が存在すること」を受け入れたそうです。そして、「わたしは、わたし」と、

大阪市中央区のカトリック教会にある社会活動センター・シナピスに、難民支援を続けている女性を訪ねました。1991年の湾岸戦争を機に「戦争を未然に防ぐ、平和をつくる（H and of Peace）平和のために一生をかけようと転職されたそうです。

難民支援は一筋縄ではいきません。日本の難民認定はたった、0・3%。滞在許可の下りない在留外国人が入管に入れられ、祖国に強制送還されれば、死に直結することもあります。S NSで繋がることで、国外待避が成功する」といふれば、悲しい知らせを聞くことにもなるそうです。でも彼女はとにかく明るくバイタリテ

ィーにあふれています。「負け戦ばかり。でも笑ってなきや、やってられません！」人間の尊厳にかかる「働きたい」という難民の方たちの気持ちを大切にするため、難民カフェにも取り組んでいます。祖国の料理を近所の方に食べてもらうことで、新しい絆が生まれるということです。

アートスクール『アトリエ e. f. t.』（玉造・生駒）主宰、2022年度グッドデザイン大賞受賞の『まぼうのだがしやチロル堂』共同代表、登校拒否の子どもから大人が学び社会を変える『トーキョーロービー』代表、スカバンド『DOBERMAN』のボーカルなどをされている吉田田タカシさん（通称ダダさん）に取材をさせていただきました。

『アトリエ e. f. t.』では「つくるを通して生きるを学ぶ」を掲げ、ワークショップを通して、思考力、発想力、表現力、コミュニケーション